

## 令和5年第9回狭山市定例教育委員会会議議事録

開催日時 令和5年9月27日(水)  
午後3時32分から午後4時56分まで

開催場所 市役所 5階 教育委員会室

出席者 教 育 長 滝 嶋 正 司  
教育長職務代理者 古 谷 広 明  
委 員 宮 崎 英 子  
委 員 安 河 内 由 香  
委 員 青 田 和 義

欠席者 な し

委員及び傍聴人を除くほか、議場に出席した者の氏名

生涯学習部長	内 藤 光 重	次長兼教育総務課長	關 根 浩 由
社会教育課長	石 井 巳代子	スポーツ振興課長	河 井 一 敏
学校教育部長	田 中 義 久	次長兼教育指導課長	宇 佐 見 昌 義
教育センター所長	利根川 浩 子	書 記	神 田 崇 広

会議の公開・非公開 公 開

傍聴者数 0名

報告事項

- ・令和5年第3回狭山市議会定例会の概要について

報告者 (生涯学習部長)  
(学校教育部長)

(要旨)

会期は、9月1日(金)から9月29日(金)までの29日間の予定であり、議案は、人事案件1件、補正予算4件、契約案件1件、財産の取得1件、決算認定6件、剰余金処分2件の合計15件である。

一般質問については18名の通告があり、うち教育委員会関係は9名であった。金子広和議員からは小・中学校(水筒持参)について、土方隆司議員からは学校教育(規模と配置の適正化、暑さ対策、学校教育の充実)について、内藤光雄議員からは安全な学校給食の提供と食物アレルギーについて、大沢えみ子議員からは聴覚障害者福祉、マイナンバーカードと保険証の一体化について、衣川千代子議員からは水野公民館について、酒井英男議員からは小中学校の危機管理対策について、橋本亜矢議員からは子どもが過ごす環境のコロナ対応につ

いて、菅野淳議員からは小中学校の就学支援について、船川秀子議員からは学校図書館の充実と子どもの読書活動について、それぞれ質問があり、それに対する答弁の内容について報告がなされた。

委員からの質疑等では、土方議員の一般質問における公立小中学校の規模と配置の適正化を進める上での課題は何かとの質疑に、転入促進のための様々な施策を実施し、若い世代の流入が多く、これまでの児童生徒の将来推計のとおりに進んでいない地域があり、場所によっては児童生徒数が増えている地域もある。今後も、その状況が続くのか、具体的な根拠を求めて再調査を行うべく業務を委託し、児童生徒数の将来推計を求め直しているところである。それが確認できた段階で、改めてこれまでどおり地域ごとに学校の規模と配置の適正化を進めるのか、あるいは、適正化を進めると学校が不足してしまうのかということを見極めた上で再度調整しなければいけないという点が課題である。学校施設の老朽化が進んでおり、どういう順番で改修を進めていくのかということも併せて調整していかなければいけないという点も課題である旨の答弁がなされた。

児童生徒数の将来推計の調査は 10 年後を推計するののかとの質疑に、学務課では、通常、5 年後までの将来推計を国に報告している。ただし、ある時点で捉えて、それまでのトレンドで推計しているため、結果は右肩下がりのままに出ている。例えば、狭山市駅周辺は、再開発の関係でマンションが建設された。また、入間川地区では、市街化区域の中に農地が残っているところがあるが、生産緑地として税制上優遇されているところが多い。ここで、生産緑地の制度が大きく変わるが、農地所有者の高齢化に伴い、農業を継続する人が少なくなっている状況がある。このため、その農地が転用されると戸建ての住宅が増え、道路の整備と相まって開発がさらに進むことが考えられる。広瀬地区では道路整備が進み、入曽地区では駅前の開発が進みつつあり、人口推計が非常に難しくなってきた。このため、今までのトレンドで小中学校の再編を考えることが難しくなってきた旨の答弁がなされた。

内藤光雄議員の学校給食に関する質問に関わり、物価高騰などに伴い学校給食への影響は出ているのかとの質疑に、栄養士の工夫により、物によっては安くなっている食材もあり、それらを取り入れるとともに、昨年度は国からの交付金もあり給食費を上げることなく、栄養価も確保しながら提供できている旨の答弁がなされた。

委員からは、防災対策についての一般質問に関わり、先生方が、定期的に、また、平日頃から災害発生時の行動について語ってもらえると、子どもたちは行動に移しやすいとの意見がなされた。

・令和 5 年度博物館夏期企画展の開催結果について

報告者（社会教育課長）

（要旨）

夏期企画展「ざんねんないきもの展～大集合！深海生物からほ乳類まで～」

は、7月1日（土）から9月3日（日）まで57日間開催し、入館者数は19,135人であった。今回は、身近に見ることが少ないホッキョクグマやライオンなどのはく製標本や深海魚であるラブカなどの液体標本、シーラカンスの模型や生態の映像などを展示したほか、狭山市立智光山公園こども動物園の協力を得て作製した動物紹介と動物こぼれ話のコーナーを設け、こども動物園で人気の動物を紹介する内容を行った。アンケート調査の結果、入館者の8割から「良い」との評価をいただいた旨の報告がなされた。

委員からの質疑等では、アンケートで「改善の必要あり」と答えた人の意見の中に、何か改善のヒントとなるようなものはあったかとの質疑に、アンケート調査は博物館で取りまとめているが、改善点については、今後の課題として、打合せを行う際に、こういう話があったと説明があるかと思うので、そこから課題の解決を行っていく旨の答弁がなされた。

委員からは、入館者数は、ほぼ予定どおりであり、意見を見ても「よかった」との意見が多く、良い企画であった旨の感想が述べられた。

会場が狭く、暑く感じたが空調は効いていたのかとの質疑に、入場者が多くなった場合は入場制限を行うという話があった。博物館も建設からかなり経過しているため、空調設備も点検項目に入っているため、その点は確認しておく旨の答弁がなされた。

・令和5年度博物館秋期企画展の開催について

報告者（社会教育課長）

（要旨）

子どもたちに狭山市を中心とした学校給食の歴史と現在の学校給食センターでの取組みに興味を持ってもらうことを目的に、「おいしい！の記憶～狭山の学校給食～」を10月7日（土）から12月3日（日）までの会期で開催する。この企画展では、日本の学校給食の始まりから現在までの歴史を、献立レプリカや資料を基に振り返るものである。また、狭山市での学校給食の歩みをたどり、現在の狭山市の学校給食センターでの取組みについても紹介するものである旨の報告がなされた。

・令和5年度家庭教育合同研修会について

報告者（社会教育課長）

（要旨）

学校・家庭・地域社会の連携を深め、地域ぐるみの教育を推進するとともに、家庭における教育力の向上を図ることを目的に、狭山市教育委員会と狭山市PTA 連合会の主催事業として開催するものである。日程は、10月28日（土）に、水富小学校体育館と御狩場小学校体育館において、11月18日（土）に、奥富小学校体育館と新狭山小学校体育館において、それぞれブロックごと開催する旨の報告がなされた。

・令和5年度狭山市民文化祭について

報告者（社会教育課長）

（要旨）

10月1日から11月にかけて、各公民館、入曽地域交流センター、富士見集会所、中央図書館、市民会館の14会場において、利用団体の発表、展示や模擬店などを行うものである旨の報告がなされた。

- ・令和5年度狭山台プールの利用状況について

報告者（スポーツ振興課長）

（要旨）

狭山台プールについては、昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響により、人数制限をした上での開設であったが、今年度は、手指消毒等、基本的な感染防止対策を継続しながら、人数制限を行わず開設したものである。7月22日（土）から9月3日（日）までの44日間開設し、昨年度より5日間の増となった。利用者数は、合計4,301人であり、昨年度に比べ1,333人の増となった。使用料収入については、781,450円となり、昨年度に比べ262,450円の増となった旨の報告がなされた。

- ・令和5年度全国学力・学習状況調査の概要と主な結果について

報告者（教育指導課長）

（要旨）

この調査は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、全国一斉休校が行われた令和2年度以外は、毎年、小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されているもので、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的に実施するものである。

令和5年度は、例年実施されている国語・算数・数学に加え、中学生は英語も実施した。併せて、児童生徒の学習意欲を計る質問調査も行われた。

平均正答率を見ると、小学6年生の国語は全国平均を2.2ポイント、算数は4.5ポイント下回った。中学3年生の国語は全国平均を0.2ポイント上回り、数学は同率、英語は0.6ポイント下回った。埼玉県と全国の比較では、小学校算数以外は、全教科埼玉県が上回っている。昨年度調査では、小学校算数も埼玉県が上回っていたことから、本市同様、埼玉県も小学校算数に課題があると考えている。教科ごとに令和5年度の全国の結果と狭山市の結果を比較すると、小学校では、国語・算数ともに全国との差が開く結果となり、中学校では、国語・数学ともに狭山市が上回る結果となった。3年ぶりの実施となった英語については、わずかに下回る結果となった。

平均無解答率については、問題にきちんと取り組んでいるか否かを計る指標として示されている。ここを改善することにより、全国や県の平均との差を縮めることにつながるものと期待したが、本年度は、小学校6年生の平均無解答率は、国語・算数ともに、全国・県平均とも差が開き、一方、中学校3年生の

無解答率は国語・数学・英語の全ての教科で全国に比べて低い状況である。県との比較においても差を縮める結果となった。今後は、小学6年生の無解答率の全国・県との差を更に縮めていくことが課題の一つと捉えている。

小学校では、国語・算数ともに学力全体の底上げが課題である。特に、本年度顕著となったのは、学校間の格差があることであり、小学校では、平均正答率が、国語では最大19%、算数では最大15%あった。学校間の差については、地域や学校規模との相関関係は薄く、学級・学年経営が成績にも影響していると考えられる。特に、小学校は、担任との結びつきが強く、小学校5年生時の学年・学級経営が学習に向かう意欲や理解定着に影響していることが伺えた。また、中学校においても、小学校同様に学校間格差が見られ、平均正答率の差が国語では最大8%、数学では15%、英語では11%あった。学校間の差については、小学校と同様に地域や学校規模との相関関係が薄く、中学校では教科ごとに担当が違うので、学級経営というよりも中学校2年生時の各担当の日常の授業が成績に影響していると考えられる。教科では、小学校算数で県との差が広がっている傾向が見られる。小学校5年生の算数の授業は、教育活動の取り組みを見直していくことが課題解決につながると考えられる。中学校英語では、平均正答率については、前回の調査と大きな変化はないが、小学校で英語特区として取り組んできたことを考慮すると、学力の定着につなげていきたい。

児童生徒質問紙調査結果を見ると、小学校では8項目のみ同等で、それ以外では全国を上回った。特に、「将来の夢や目標をもっていますか」では、全国を5ポイント上回っており、今後の学力の伸びなどが期待できる結果であると考えられる。中学校においても、2・4・6の3項目以外は全国を上回る結果となった。

「将来の目標や夢をもっていますか」では、全国平均を2.5ポイント下回った。昨年度も同様の結果が見られ、引続き進路指導やキャリア教育の充実や工夫が必要と考える。学校質問紙調査結果は教員が回答したもので、小学校では1・3・5の3項目で全国を上回った。中学校でも1・2・5の項目で全国を上回る結果となった。児童・生徒同士のICT機器の使用については、「ほぼ毎日行った」「週3回以上行った」の値になっているが、全国との差に開きがある。今まで一人1台端末が児童生徒全員に配付され、授業などでの活用を推進してきたが、児童生徒間同士でのやりとりに関しては、昨年度も課題となっていることから、今後、改善に向けてさらなる取組みを推進していく旨の報告がなされた。

・令和5年度埼玉県学力・学習状況調査の概要と主な結果について

報告者（教育指導課長）

（要旨）

本調査は、小学校4年生から中学校3年生を対象に実施しているもので、児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進することを目的とするものである。小学校4年生から中学校1年生は、国語、算数（数学）について、中学校2年生及び3年生は、国語、数学に加え英語について調査するものである。また、国の調査同様に、質問紙による調査も実施している。平

均正答率一覧表について、項目中のレベルについては問題の難しさに応じて最下位を1とし、最上位を12と設定し、12段階をさらにA・B・Cの三段階に分け、全部で36の段階で表したものである。数が大きくなるほど難易度が高くなり、Aの方がBよりも上の段階になる。レベル範囲は1学年につき7つのレベル範囲で表し、学年の児童生徒の平均正答率がどのくらいのレベルになるか、また、これまでに比べ、今年度はどのくらい学力が伸びたかを判断する際に活用する。平均正答率で見ていくと、小学校については、小学校4年生の国語、小学校6年生の算数が県の平均を下回り、小学校5年生の国語・算数ともに県を上回った。小学校4年生の算数、小学校6年生の国語は僅かに県平均を下回っているがほぼ同等であった。中学校については、数学では全ての学年で県を上回り、中学校3年生の英語も県を上回っている。中学校1年生と3年生の国語、中学校2年生の英語は、わずかに県を下回っているが、ほぼ同等であった。

同集団による学力の伸びにより、前年度からどのくらい伸びたかということを見ると、小学校6年生の国語、中学校1年生の数学が県の伸びを上回っている。県より伸びが少ないのは、中学校3年生の数学であった。それ以外については県の伸びと同等であった。この伸びについては、児童生徒の学習成果であり、教員による学習指導の効果を表している。本市においては、伸びのあった該当教科や該当学年では、日頃の授業が充実していたと考察している。また、伸びが見られなかった学年・教科についても、もともと高いレベル状態であり、伸ばすことが難しかったことも要因であったと考えている。

学校別の学力の伸びでは、小学校5年生・6年生の国語については、学力の伸びた児童の率が県よりも高くなっている。中学校では、全ての学年・教科で本市としては、学力の伸びた生徒の率が県と同等であり、中学校3年生の数学のみ、僅かに県よりも低くなっている。伸び率について、学校間での格差があった。全教科での学力の伸びの合計は、小学校では最大13ポイント、中学校で最大6ポイントの差があった。今後、どのような取組みが児童生徒の伸びにつながったのか詳細な分析を行い、成果を共有して他学年の学習指導にも活かしていきたいと考えている。学校ごとの分析も併せて行っていくが、自校の課題を教員で共有しながら、2学期以降の学習に反映できるように研修を進めていく。さらに、大きな伸びが見られた学校については、昨年度の取組みについて聴取し、他校の取組みに活かせるように情報発信を行っていく。

質問用紙調査の規律ある態度の結果では、80%の数値目標でみると、ほとんどの項目で県平均、または県平均を上回る結果が得られている。課題としては、昨年度と同様の「整理整頓」「あいさつ」「話を聞き発表する」の項目が挙げられ、県についても同様の状況であった。毎年、同様の傾向であるが、本市は、「あいさつ」が県の平均を下回った学年が多く見られ、学校だけでなく、家庭や地域との連携を図りながら意識的に取り組む必要があることから、市で順次設置を進めている学校運営協議会でも、学校・家庭・地域の共通の課題として今後取り上げ、改善策を一緒に考え、取組を推進していきたいと考えている旨の報告がなされた。

委員からは、規律ある態度で気になるのは、あいさつである。以前からあい

さつ運動などを行っているが、なかなか続かないのは、子どもたちが人見知りするとか、挨拶の意味が分からないなど、いろいろな要因が考えられる。挨拶は社会的なスキルを身に付ける意味でも、自分の存在がここにいるよという意味で声かけをした方がよいので、挨拶については、数値的に見ると浮き沈みもあるかと思うが、引き続きご指導をお願いしたい。子どもたちには、挨拶の意義、自分はここにいるし、あなたとコミュニケーションを取りたいという意味合いをうまく伝えられればよいと考えるので、指導を続けてほしい旨の要望がなされた。

・令和5年度スクールカウンセラー活動状況について

報告者（教育センター所長）

（要旨）

スクールカウンセラーは、県費により市内に10名配置しており、小学校15校には4名配置し、平均1か月に1回程度学校を訪問し、中学校8校には6名配置し、平均1週間に1回程度の割合で学校を訪問することになっている。活用については、学校によっても異なるが、計画的に保護者との面談や不登校児童生徒との面談を実施している。4月から7月までの相談実件数は、中学校114件、小学校148件である。昨年度の同時期に比べ、中学校11件の増加に対し、小学校は71件の増となっている。小学校が著しく増加しているが、その原因については、今年度、1学期の小学校の不登校数が増加傾向にあること、併せて、さやまっ子相談員を小学校全校に配置したことで、相談室に来室する児童や保護者の数が増え、スクールカウンセラーにつながりやすくなったことが原因ではないかと考えている。スクールカウンセラーが関わりを持ち、他機関等に相談した事例の中学校5件については、スクールカウンセラーが教育センターやこども支援課等と中学校との情報交換やケース会議等をつないだケースとなっている旨の報告がなされた

・令和5年度英語サマーキャンプの結果について

報告者（教育センター所長）

（要旨）

令和元年度以来4年ぶりに実施したもので、小学校6年生と中学校1年生を対象とした事業であり、29名の児童生徒が参加した。会場については、入間市青少年活動センターを借用し、2泊3日の日程で、語学指導助手（ALT）を中心に、英語漬けの生活を送ることで英語学習に対する意欲の向上を目的として実施しているものである。参加児童生徒に対する事前・事後のアンケートと保護者アンケートの結果を見ると、大変良い評価をいただいた。来年度の開催に向け、本年度の内容をさらに吟味し、担当指導主事を中心に見直しを図っていく予定である旨の報告がなされた。

委員からの質疑等では、参加児童生徒数は29名であるが、定員を上回る参加申し込みがあったのかとの質疑に、当初、各学校1名程度の参加ということで23名を予定していたが、希望者数が多く、ALTとも相談し希望者全員の30

名を受け入れることになった。うち 1 名が初日に体調不良で早退したため 29 名の参加となった旨の答弁がなされた。参加人数が多く苦勞した点はあるかとの質疑に、29 名であったが支障なく実施できた。初対面の児童生徒がほとんどであり、児童生徒も緊張感をもって 2 泊 3 日を過ごしたものと考えている旨の答弁がなされた。よい企画であり、今後参加人数が増えた場合、2 回に分けて実施するなどの考えはあるのかとの質疑に、今回は 4 年ぶりの開催であり、2 泊 3 日の 1 回だから集中して実施できた面もあり、回数を増やすのはむずかしいとの感触もあるが、今後については、いろいろ意見を伺い改善につなげていく旨の答弁がなされた。

委員からは、保護者や子どもたちの意見を見ても大変すばらしい企画であったことが伺える。折角よい取組みを行っているので、参加した児童生徒の今後の活躍・活動について可能な限り追跡して、他にアピールしてもよい企画であり、検討してほしい旨の要望がなされた。

- ・令和 5 年度中学生学習支援事業『さやまっ子・茶レンジスクール』夏季集中講義の結果について

報告者（教育センター所長）

（要旨）

市内 8 中学校の全学年を対象に夏季休業中の 6 日間、英語・数学・国語の 3 教科について講義を実施し、延べ 2,225 名の参加があった。出席率は昨年度とほぼ同様であり、登録したが欠席した生徒の理由は、部活動や新型コロナウイルス感染症の感染、家族での急な外出があげられている。事前・事後のテストの結果を見ると、1 年生の数学に若干伸びの鈍さが見られるものの、事後テストに出題した事前テスト共通問題において、10 ポイント以上、1 年生の英語については 42 ポイントという平均点の上昇が見られたことから、学習成果が確実に上がったと考えている。伸びの小さな教科については、冬季講習に向けて問題の見直しを図るよう業者とも協議を進めていく。最終日のアンケート調査では、「参加してよかった」「とてもよかった」が 71%、「授業が分かりやすかった」「とても分かりやすかった」が、英語で 79%、数学 74%、国語 71%となっている。生徒たちにも有意義な時間になったことがアンケートから見てとれる。冬季休業中にも、1 月に 3 日間実施する予定である旨の報告がなされた。

委員からの質疑等では、一般の教職員がこの事業を見学することは可能かとの質疑に、見学は可能だが、実際にはそういう姿は見受けられない旨の答弁がなされた。委員からは、いろいろな技法を一般教職員が学ぶ場として、自分が教えている子どもたちが教わっている姿を見て学ぶという姿勢も大切と考えている。できればこれを教員の指導力向上に何等かの形でつなげてほしい旨の要望がなされた。

授業の内容について、委託している業者に要望はできるのかとの質疑に、学習の内容については、各教科の 6 日間の内容について、どのような進めていくか、どのような内容にするか、業者が全国共通のテキストを作成し、そのテキストを基に、担当の指導主事が委託業者に指導している旨の答弁がなされた。



具体的にこのようなことを中心に教えてほしいということも要望しているのかとの質疑に、基礎基本ということで、各学年の各教科の内容について、この部分をということで、業者とも調整しながら進めている旨の答弁がなされた。委員からは、子どもたちの感想を見ると、「学習のやり方が分かった」「やる気が出た」というものが多いことを考えると、この講座の目的である「確かな学力の定着を図る」ということについては、学校の先生と保護者の力に任せ、ここでの目的はむしろ、「やる気を出させる」「意欲を引き出す」とかでもいいのではと思った。目的を検討する際には、その点も考慮してほしい旨の要望がなされた。

・狭山市教育委員会後援名義の使用行事について

報告者（社会教育課長）  
（スポーツ振興課長）

（要旨）

社会教育課関係 6 件、スポーツ振興課関係 1 件の後援名義使用承認の申し出があり、審査の結果、使用を承認した旨の報告がなされた。

委員からの質疑等では、武蔵野学院大学・武蔵野短期大学主催の公開講座の内容はとの質疑に、1 日目は、絵本ライブ「子どもも大人も楽しめる絵本のお話」、2 日目は、「子育てについて施設心理士が伝えたいこと」というテーマの講座が予定されている旨の答弁がなされた。公開講座ということは、誰でも参加できるのかとの質疑に、参加は申込みが必要で、9 月 25 日（月）午前 9 時から 10 月 20 日（金）午後 5 時までの間に、電話、ファクシミリ、もしくは申込みフォームから行うことになっている旨の答弁がなされた。

## 議 案

### 議案第 48 号 令和 6 年度当初狭山市立小・中学校教職員人事異動方針及び令和 6 年度当初狭山市立小・中学校教職員人事異動方針細部事項について

埼玉県教育委員会から、令和 5 年度当初教職員人事異動の方針が示されたことから、令和 6 年度当初狭山市立小・中学校教職員人事異動方針及び令和 6 年度当初狭山市立小・中学校教職員人事異動方針細部事項を定めるため、提案がなされたものである。

委員からの質疑等では、細部事項に学校栄養職員の記述があるが、狭山市では、栄養教諭として何名がどの学校に配置されているのかとの質疑に、市に 2 名、柏原小学校と中央中学校に配置し、他の学校を巡回している旨の答弁がなされた。新採用の教員は、「採用後 6 年以内に異動を行う。その際、原則として市町村間の異動を行う」とあるが、市町村間の人数のバランスでこれが叶わない場合、市内で異動し、そこから 10 年間同じ学校に在籍できるのか、あるいは何年かのちに他市町村

に異動するののかとの質疑に、原則6年以内に異動している旨の答弁がなされた。「同一校在職10年以内に異動を行う。特に、7年以上の者については、積極的に異動を行う」とのことだが、同一校7年以上勤務の者は何名いるのかとの質疑に、小学校で40名、中学校で24名である。なお、産休中、育休明けから1年間は異動しなくともよいとの猶予を利用、そのほか校内事情から同一校10年以上勤務の者が小学校、中学校とも3名である旨の答弁がなされた。「小中学校9年間を一貫した教育の推進を図るために、小・中学校間の異動に努める」とあるが、管理職以外に小・中学校間を異動した者は何名いるのかとの質疑に、教員の異動はない旨の答弁がなされた。

議案第48号については、原案可決した。

以 上